

日本英学史学会 中国・四国支部

令和4年度 第2回（通算86回）研究例会のご案内

令和4年度第2回（通算第86回）支部研究例会をオンライン形式で開催します。今回の研究例会では、研究発表が2件予定されています。皆様ふるってご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

日時： 2022年12月10日（土） 13:30 受付開始
方法： オンライン会議システム Zoom による開催
参加費： 会員，非会員とも無料

開会行事（14:00～14:05） 支部長挨拶

研究発表(1)（14:05～15:15）

「明治期英語教科書独習書に見る『再読』：森修一の独案内を中心に」

馬本 勉（県立広島大学）

【概要】明治期に用いられた英語教科書の参考書として、「独案内」や「直訳」といった独習書が多数出版された。これらは当時の訳読法を知るヒントを与えてくれるが、その一つに、漢文の「再読」に相当する方法が用いられていたことが知られている。例えば、各英単語に訳語を付す「独案内」では、使役動詞の make に「シテ | シムル」、接続詞の if に「モシモ | ナラバ」のように2つの訳語を与え、それぞれに異なる訳順数字を添えている。本研究では、広島県庄原出身の森修一が残した「ニューナショナル読本独案内」の記述内容を分析し、明治期の再読の様子を明らかにしていきたい。

研究発表(2)（15:30～16:40）

「英語語彙の多面的学習」

松岡 博信（安田女子大学）

【概要】語彙は多面的、言い換えれば立体的に学習すべきというのが私の持論である。語彙学習を促進する方策は多々あろうが、どれか一つに固執するのではなく、様々な方法で学習する方が定着率が高いことは言うまでもない。これは語学以外においても体験的な学習の方が持続性が高いのと同じである。本発表では、語源・同意語・反意語・品詞転換・連語・句動詞・外来語および品詞分析を活用した語彙指導の歴史的事例を取り上げるとともに、中等・高等教育の教室で学ぶ日本人英語学習者の語彙習得が、何故 Vocabulary を増やすことも、その記憶を長年に渡って維持することができないのかについて、その原因と解決策を論じ、より良い英語語彙指導に向けた方策を論じたい。

閉会行事（16:45～16:50） 副支部長挨拶

懇親会（17:30～19:00）オンラインで開催（参加自由。飲み物や食事は各自準備）

オンライン研究例会の参加申し込みについて

例会前日までに電子メールでお申込みください（アドレス eigaku.chushi@gmail.com）。
お申込みの方には、参加用の URL（アクセス用アドレス）をお送りします。